

令和 6 年
2024 年

3 月

日	月	火	水	木	金	土
					1 先負 ね	2 仏滅 一粒万倍日 うし
3 大安 ひなまつり とら	4 赤口 う	5 先勝 啓蟄 たつ	6 友引 み	7 先負 うま	8 仏滅 ひつじ	9 大安 さる
10 友引 一粒万倍日 とり	11 先負 いぬ	12 仏滅 る	13 大安 ね	14 赤口 うし	15 先勝 一粒万倍日 三りんぼう とら	16 友引 う
17 先負 彼岸入り たつ	18 仏滅 み	19 大安 うま	20 赤口 ●春分の日 春分 ひつじ	21 先勝 さる	22 友引 一粒万倍日 とり	23 先負 彼岸明け いぬ
24 仏滅 る	25 大安 社日 ね	26 赤口 うし	27 先勝 一粒万倍日 三りんぼう とら	28 友引 う	29 先負 たつ	30 仏滅 み
31 大安 うま						

弥生

〔やよい〕令和 6 年 3 月

弥は「いよいよ」「ますます」という意味で、「たくさん植物が生まれて花盛りになる」という意味があります。

発行：北海道神社庁一區教化委員会

神は清浄を欲す、正に従うを以て
清浄となす、悪に以て不浄となす
— 神道明辨 —

今月のことば

神は清浄を欲す、正に従うを以て
清浄となす、悪に以て不浄となす
— 神道明辨 —

これも伊勢神宮の教学が、清浄・正直の二つにあることを明示したものである。清浄・正直が伊勢の天照大神の御心に他ならないとしたのは、伊勢神宮の祭りが、この二つを理想として実行されて来ていることを物語ったものに他ならない。

さらに清浄・正直と言っても別々のものではない。正直の言行が、そのまま即ち清浄となるのだとする。これに反し、正直でないことは、それが全て悪だとされる。

人間道徳で言う正直も、その根本は信仰的は深い清浄心に根源があり、そこから発する。眼に見えない世界の存在に敬虔な眼を向けるのが、信仰としては肝要である。

(神道百言 一般財団法人神道文化会編より抜)

季節のまつり

上巳 三月三日
桃の節供「ひな祭り」

上巳の節供、一般的には「桃の節供」として親しまれているひな祭りですが、もともとは田植の前に田の神様を迎えるために、紙や土で小さな人の形を作り、体をなでてけがれを落とし、川や海に流す祓の行事であったようである。その人形が次第に豪華になり現在のようになつたといわれるようになった。この日、女兒の成長を祝い喜び、末長い幸福を祈ります。ところで、俗に雛人形はあまり長く飾ると女の子の婚姻が遅れると考えられ、ひな祭りが過ぎた翌日以降、なるべく早く片付けべきといわれています。

春分

三月二十日
「我が家の守り神」に感謝の祭り
この日を中日に前後三日の間をお彼岸と呼びます。ふだんは忙しくてなかなか行けないお墓にも、家族そろってお参りしご先祖のお祭りをしますが、これはわが国の伝統的な祖先を敬い大切にしている信仰に由来しています。

社日

三月二十五日
「戌の日」に豊作祈願
社日は、産土神(生まれた土地の守護神)を祀る日で、春分・秋分の日に最も近い戌の日をいいます。「戌」という文字には「土」という意味があります。この日、土地の神を祀って春は五穀の豊作を祈願し、秋には実りの収穫に感謝します。

二十四節気

【啓蟄 けいちつ】…五日
旧暦二月卯の月の正節で、このころになると、冬眠していた地中の虫も、そろそろ穴を啓(ひら)いては出でてきます。

六曜・選日

【先勝】…諸事急ぐことによし、午後よりわるし
【友引】…朝夕よし、正午わるし、葬式を忌む
【先負】…諸事静かなることによし、午後大吉
【仏滅】…万事凶、患えは長びくおそれあり
【大安】…何事をするにも吉の日、大吉日
【赤口】…諸事油断すべからず、正午のみ吉
【選日の吉凶】
【三隣亡】…三隣亡日、普請始め、棟上大吉日
【二粒万倍日】…出資・投資・購入、新規事業開始
婚姻は吉、借りの、離別は凶

七十二候《3月》

春分 初候・雀始巢(すずめはじめの巣) (三月三日)
次候・雀が巢を構え始める (三月五日)
末候・桜の花が咲き始める (三月七日)
啓蟄 初候・蟄虫啓戸(ちつちゅうこをひらく) (三月三日)
次候・冬ごもりの虫が土から出てくる (三月五日)
末候・菜虫化蝶(なむしちようとなる) (三月七日)
青虫が羽化して紋白蝶になる

安産祈願 3月の戌の日

11日(月)
23日(土)

*戌の日以外でも安産祈願のご奉仕をしております。神社にお問い合わせください。

《20日 春分の日》

自然をたたえ生き物をいつくしむ日です。

祝祭日には国旗を掲げましょう

せんしゅうばんざい
千秋万歳
人の長生きを祈ること。
その言葉。「いつまでも健康で長生きで」という意味。



参考文献 『くらしと祭り百話』小野迪夫(神社新報社)

春彼岸について

わが国に、一年中で祖霊を祭る共通の大きな機会が四回ある。正月、春彼岸、盆、秋彼岸がこれである。このうち彼岸は春分と秋分の前日三日月、計七日間を指して言う言葉で、暦日としては陰暦によっている。彼岸の文字は仏語から出ているが、春の農耕等に着手するための前提として祖霊を祭ることは、やはりわが国の固有信仰の習俗から出ているといえる。これを、言葉が外来語で、行事の形式も仏の供養に似ているから仏教独特のものと思ってしまうのは誤りではないかと思われる。これは仏教が伝来してから民間に普及するまでの長い間に、わが国の祖霊祭祀の習俗を多く採り入れたためであって、元来は祖霊祭祀という日本民族の固有信仰によるものであった。